

看護師企画によるシンポジウム

○テーマ

動き出した「がん看護相談」

茨城県立中央病院 看護局長 角田 直枝（企画者代表）

がん診療連携拠点病院の新たな要件のひとつに、看護師等によるカウンセリングの活用があげられ、診療報酬改定でもがん患者指導管理料が新設された。県内でもいくつかの施設でがん看護相談が動きだし、そこでの成果や課題が蓄積され始めた。しかしながら、看護相談の運用方法、患者にとっての効果、医療チームとしての評価などは、拠点病院の看護師はもとより多くの医療従事者にまだ十分には共有されていない。

そこで、今回のシンポジウムでは、がん看護相談の実際と有用性について討論する。まず、がん看護相談を行っている認定看護師からの報告を受け、次に、看護以外の立場からがん看護相談をどのように活用しているのかについて医師と MSW から発表していただく。3人の発表の後、がん看護相談の有用性について全体討議を行う。これにより、他の施設においてもがん看護相談の理解が進み、そこでの取り組みが促進されることを期待する。その結果として、療養を続けるがん患者の不安の軽減や治療への助力に資するものとする。

○座長

風間 郁子 筑波大学附属病院 看護部 がん看護専門看護師
細谷 恵美 (独)国立病院機構水戸医療センター 看護部 がん化学療法認定看護師

○シンポジスト

上野 政子 東京医科大学茨城医療センター 看護部 緩和ケア認定看護師
稲毛 芳永 (独)国立病院機構水戸医療センター 呼吸器外科・がん診療担当部長
磯崎 美穂 総合病院土浦協同病院 福祉相談部 ソーシャルワーカー